

裏面白紙

第 號

法 制 局

昭和十三年四月十九日

主査 事務官
參事官

總裁職

長官



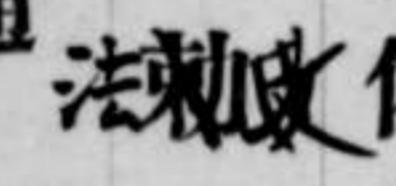
書記官

理事官

參事官

別紙 夏時刻法案

起案上申ス 依別紙一通開議決定シラレ可然ニ認ム


律令案

別紙ノ通

328
40
八
151

夏時刻法案

右
國会に提出する。

年 月 日

内閣總理大臣

内
閣

夏時刻法

毎年、四月の第一土曜日の午後十二時から九月の第二土曜日に次ぐ日曜日の午前零時までの間は、特に中央標準時によることを定めた場合を除く外、すべて中央標準時より一時間ずつ、くり下げる時刻（「夏時刻」）によるものとし、四月の第一土曜日に次ぐ日曜日は二十三時間をもつて、九月の第二土曜日は二十五時間もつて夫、一日とする。

この法律の施行に關し、時間に關する他の法律の規定の適用について必要な事項は、政令で、これを定める。

附 則

この法律は、公布の日から、これを施行する。

この法律の適用については、昭和二十三年においては、この法律の本則において「四月の第一土曜日」とあるのは、「五月の第一土曜日（五月一日）」とする。

裏面白紙

理由

日光をできるだけ利用することは電力の節約その他國民生活の全般に亘り、福利をもたらす所以である。この趣旨に基き、あらたに夏時刻の制度を設ける必要がある。これが、この法律案を提出する理由である。

この問題が幾度も討議された。たゞ、内閣は本來の議論から理由を
六回も、審議を終ては至らなかった。内閣は内閣議、それで夏時
間の時刻変更を実現せざるに至った。内閣は内閣議、それで夏時
間の時刻変更を実現せざるに至った。

Summer-Time Bill

Every year, during the period from twelve (12) o'clock p.m. of the first Saturday of April to zero (0) o'clock a.m. of the Sunday immediately following the second Saturday of September, the time advanced by one hour from the central standard time (Summer-time) shall be adopted for all purposes with the exception of those cases where the central standard time is specifically used, and twenty-three (23) hours shall make one day on the Sunday immediately following the first Saturday of April and twenty-five (25) hours shall make one day on the second Saturday of September.

In application of the present law, matters concerning the calculation of hour necessary for the execution of other laws may be provided by Cabinet Order.

Supplementary Provisions

The present law shall be put into force as from the date of promulgation.

In effectuating for 1948, "the first Saturday of April" in the main provisions of the present law shall be read as "the first Saturday of May (1st of May)".

裏面白紙